



山本正夫著

指導  
細說

中學年の唱歌教育

人文書房版



登 山

J. = ma

1. 雲 霧 暗 い そ の 道 を 過 ぎ て 段 々 と 峻 しい 山 道 に か  
 2. り ます 涼 風 が 顔 を 吹 き ます 名 も 知 ら ぬ 小 鳥 が チ と 鳴  
 いて 枝 から 枝 へ 飛 び 廻 り ます 滑 水 が チ ヨ ロ ー と 岩  
 ク モ フ ク オ ぬ キ ノ レ タ シ ャ ユ ケ ー バ  
 こ こ し き 巖 岨 を よ ち つ っ 行 け ば  
 オ ク バ ノ サ サ ヤ キ ロ ズ エ タ コ ク カ ビ  
 た に ま の み つ び と ず ゑ に な く と り  
 ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ  
 ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

ます。雲尚暗いその道を過ぎて、段々と峻しい山道にかゝります。涼風が顔を吹きます、名も知らぬ小鳥がチ、と鳴いて、枝から枝へ飛び廻ります。滑水がチヨロ〜と、岩

登 山 大童球溪作歌

一、遙に雙だつみ山をさして、  
 雲衝く大木の下道ゆけば、  
 落葉のささやき梢を吹く風、  
 ララララララララララララララララララララララ

二、雲居る高山み空に眺め、  
 こゝしき巖岨をよちつゝ行けば、  
 谷間の水音梢に鳴く鳥、  
 ララララララララララララララララララララララ

間から洩れ出る。實に何とも云へない氣持ですね、今日は山登り(登山)の愉快さを語つた歌をお稽古しませう。先づ歌を一緒によんで見ませう。(難解語句は適當に解説す

るがよす。

〔準備〕 出来るなれば、登山の寫真が欲しい。實感を咬る事は理解の最大なるものだ。

〔教授法〕 口授より視唱法に入るがよい。何となれば弱起拍子は、この前に「森の樂隊」「山家の秋」の二曲があるが、八分音符二個弱起は一寸歌ひにくいやうに思はれるが、音程は比較的容易に、歌詞ともよく適合し、唄ひ易い曲であるから、こゝからそろゝ發想に留意する様指導するもよし。

〔歌詞〕 前教材「豊臣秀吉」に比較すると、餘程文學的であり三年としては難いが、兒童それ〴〵が持つ經驗感念と結び付けて、それ相當に登攀の快味は得られる。第二歌詞中「こゝしき巖岨」は險しき山路の意である。(言海三四〇頁参照) ララ、を以て歌謡することは、音程發聲共に充分に味ひつゝ諷ふ、即ち直ちに以て曲そのものを鑑賞し得て非常によいが、音程發聲が容易なるために、却つて不眞面目に歌ふ事のない様注意したい。(タ、を代へ用ひて見るのもよし。

六、報 恩 (唱歌教材集) 七理重惠氏作歌

〔要 旨〕 小蟻の山鳩に報恩せし、寓話物語詩によつて、人倫道德四恩の廣大無邊にして、他日邦家に報すべきの念を涵養するを以て目的とする。

〔説話材料〕 寓話であり、物語りである。然も勤勞にして、秩序的集團生活をなす、蟻。既に高尚なる人格化されたものを、更に報恩の美德に結合されたるは、實にその當を得たものと云へよう。讀本六年にある、明治天皇の御製に、

るが、第三樂節には、ホの高調音がある。  
 口、拍子につきて、弱起の變格拍子の呼節法及び、アクセントの所在。附點音符の明快等。  
 ハ、歌謡法 莊重にして勇壯なことを要とする。

歌詞五章あるを以て、第三章と第四章との間に、四小節位の間奏を附する等の考慮を要する。  
 [7] 説話要領及參考資料

曾我兄弟のことは、本學年の讀本にも、修身書にも記載されて居ないから説話が必要である。  
 今日「曾我兄弟」と云ふ唱歌を教へませう。讀本の中に「家の紋」と云ふ韻文があつて、唱歌でうたつたでせう。其中に、「いほり木瓜は孝行の曾我兄弟に知られたり」とありましね。曾我兄弟と云ふのは、兄は十郎祐成と云つて、仇討の時に廿三歳、弟は五郎時致と云つて、廿一歳だつたのです。此人のお父さんは、河津祐泰と云つたが、其親類の工藤祐經と云ふものゝ爲に殺された。此時兄弟は五歳と三歳であつたが、お母様から「お前達が成人したら、是非仇討をせよ」と勵まされたので、兄弟は苦辛慘愴、武道を修業して機會を待つて居たが、丁度十八年後の建久四年五月、頼朝公が、富士の裾野に狩をされた時に、祐經も是に従つて。廿八日暗夜に乗じて兄弟は祐經を襲つて、多年の宿志を遂げた後、二人は潔く殺されて、一點卑怯がなかつた。兄弟を捕へた人は、二學年の時に唱歌で謡つた仁田四郎である。  
 仇討などは、今の世には行はない、一切官の手で國法に照らして、成敗することになつて居るが、昔は大層立派な賞賛すべき行爲となつて居ました。殊に親の仇を報ずることは、絶對無上の孝道であると教導されて居ました。ですから十分、同情、景慕、尊敬の意味を含めて、此唱歌を習ひませう。

昭和七年二月十五日印刷  
 昭和七年二月二十日發行

著者 山本正夫  
 發行者 鈴木省三  
 印刷者 土屋弘

東京市小石川區戸崎町九四  
 東京市神田區小川町一  
 振替東京八一二七七番

發行 人文書房

大賣捌所  
 東京・東京堂・東海堂・北隆堂・文隆堂・西尾書店  
 大坂・徳原書店・名古屋・川和堂書店・佐賀・大野書店  
 京都・京和堂・株式會社・久留米・金文堂

指導 中學年の唱歌教育  
 定價 貳圓八拾錢

中央印刷株式會社